

日本ドライケミカルの 消防車 2016



NDC デモカー (福島工場)

初期消火から大容量送水まで対応
化学消防ポンプ自動車大I型

卓越した操作性
水槽付消防ポンプ自動車I-A型

話題の
ポンプ車

化学消防ポンプ自動車II型
小型動力ポンプ付水槽車II型
化学消防ポンプ自動車III型
消防ポンプ自動車CD-II型

NDC group

New Comer Vehicle
化学消防ポンプ自動車大I型

配管は色によって区別される。青色が水の配管、濃緑色が薬液の配管、薄緑色が混合液の配管。

右側面



中央部には消火栓ハンドル、ノズル、各種媒介金具など、後部にはラインプロポーション用の筒先、各種ホース、吸管ストレーナーなどが収納されている。



ポンプ装置の液晶コントローラーはタッチパネル対応。質問に答えていくことで薬液の混合割合などを容易に設定できる。画面中、水は青色、薬液は緑色、混合液は黄色で表示され、配管のどの部分に何が流れているかが一目瞭然。この画面は、薬液混合比0.0%で、毎分2080Lを放水銃から放水している状態を示している。

ダブルキャブの後席下部と後部ボックスの間のスペースには、事業所や空港でどんなパイプとも接続できるように、各種の媒介金具が収納されている。

薬液のポンプ装置。水ポンプと薬液ポンプは独立し、それぞれ別系統のPTOにより駆動する。



中央部にはロープ、スリング、エアフォームノズルなどが、後部にはラインプロポーション用の筒先、各種ホース、照明装置と発動発電機、コードリールなどが収納されている。

左側面



車体全長は9720mmと長い。大型の日本ドライケミカル製ND200A型ポンプ装置、さらに水1t、泡消火薬剤2.5tを積載するため、車体総重量が19.25tとなり、3軸の22t級受注生産シャーシが採用されている。

注目新車を
ディテールアップ
Detail Up!
1

SPECIFICATIONS

車名	日野
通称名	プロフィア
シャーシ型式	QDG-FR1APEA(改)
全長	9720mm
全幅	2490mm
全高	3290mm
ホイールベース	5770mm
最小回転半径	7.9m
車両総重量	19250kg
乗車定員	6名
原動機型式	A09C
総排気量	8866cc
駆動方式	6×2
ポンプ	A-1型
水槽容量	1000L
薬液槽容量	2500L
混合方式	電子流量制御方式
配備年月日	平成28年3月25日
織装メーカー	日本ドライケミカル

写真・文 © 伊藤久巳

新潟市消防局 新潟市北消防署 [新潟県]

化学消防ポンプ自動車大I型

強いシャーシが大量送泡を支える!

新潟市消防局新潟市北消防署に配備された化学消防ポンプ自動車大I型(北C)。日野プロフィア22t級シャーシをベースに日本ドライケミカルが織装を担当した。平成28年3月25日配備、同4月2日運用開始。



フロント



車体前面。車体下面には自衛噴霧装置を装備。車体前面には「北C」、赤色警告灯内の標識灯には「北」と書かれている。

大容量ポンプ装置に耐えうる大型シャーシを

新潟市消防局では平成28年3月25日、新潟市北消防署配備の化学消防ポンプ自動車大I型を更新した。ベースとなったのは日野プロフィアの22t級受注生産シャーシだ。

北消防管内は新潟県石油コンビナート等防災計画で東港地区特別防災区域に指定されており、この地域の消防には石油コンビナート火災に備えた、いわゆる「3点セット」が必要になる。同車は3点セットの一角として、石油コンビナート火災の際は同じく北消防署配備の大型高所放水車、東消防署山の下出張所配備の泡原液搬送車とともに出動し、消火活動を展開することになる。3点セットの規格で定めるポンプ性能は毎分3100リットル。

さらに局の内部規程「新潟市消防局災害活動組織及び部隊運用規程(通称、部隊運用規程)」でこの大I型には3000L型可搬式泡放水砲に毎分3000リットルの送泡をすることが定められている。この二つの条件をクリアするために、6000L超という大容量ポンプが必要だった。

また大容量のポンプ装置だけでなく、ボックス上に設置されている泡放水砲装置にも特徴がある。放水銃(モニターノズル)は一般的に1500/3000切替型が多いが、同車は先代から毎分5000L/3000L切替型を搭載しており、これならモニターノズルからの送泡を毎分3000Lに抑えた場合でも、大型高所放水車などから毎分3000Lを送泡することができ、このため今回も同等の能力を備えた放水砲の搭載を求めた。

New Comer Vehicle
化学消防ポンプ自動車大I型

車内



水と薬液のポンプ装置が独立しているため、それぞれのPTOスイッチも独立。ステアリング装置の左側に水ポンプPTOのスイッチ、前面コンソール中央に薬液ポンプPTOのスイッチがある。

広々とした車内は定員6名。隊長席にはポストロムシートを採用した。



リア

ボックス上部の左右にはあおりが付いている。



積載されたホースレイヤは車体後面右側の電動操作スイッチで地上に降ろされる。

同車を運用する新潟市北消防署第2消防隊 (1部)。



消防司令補 田中 悟隊長
 消防士長 田中大輔
 消防副士長 大高友司機関員
 消防士 古山 翔



後席は4人掛けで、空気呼吸器のラックが設けられている。座面の下とシートバックの後方が資機材収納スペース、天井の中央部、後部が小物の収納スペース。出動時は事案によってキャブに積載する資機材が多くなるため、床面に何も無い状態を常に維持している。



上部のモニターノズルから放水する。放水量は毎分3000Lまたは5000Lに切り替え可能で、3000Lにした場合は残る3000Lを大型高所放水車へ供給できる。



前方からモニターノズル、水タンク、薬液タンク、照明装置が並ぶ。タンク上には資機材収納ボックスが設置され、その周囲には100mm吸管2本、50mm吸液管1本が積載される。

ルーフ

ポンプ室の点検口。青色が水の配管、濃緑色が薬液の配管、薄緑色が混合液の配管と区別されている。



モニターノズルの放水量は地上から有線式のリモコンで切り替え可能。泡ノズルは射程を重視したノンアシレーション型 (FireDos社製M4-DC/AMPN)。



佐藤工業所製LED照明装置。150W容量の灯体を2基装備し、収納状態から立ち上げ、旋回、灯体の角度調整がスイッチ操作により可能。脚部には周囲照明灯も内蔵している。LED式のため発動発電機は不要。



ボックスには油吸着布、ラインプロポーション用の小型薬液タンク、消火器などを積載。

注目新車も
 ディテール・アップ
Detail Up!
1



毎分3000L×2の泡放射ができるため、75mm吸管は原則常に両側から設定している。水利と反対側の吸管は車体の下を通すことになっている。

「シンプルイズベスト。石油コンビナート3点セットとしての利用はもちろん、優れたポンプ性能から、大規模災害などの大量放水が必要な際の元ポンプとしても活用したい」(飯原消防司令補)

給するとうだけの存在ではなく、航空機災害では自らも火点直近に部署して消火できることが望ましい。そこで、現場到着後、初期の消火で1台完結の活動ができるよう、薬液タンク(2500L)とともに水タンク(1000L)を搭載することに決めた。

水タンクは石油コンビナート災害や航空機災害以外、すなわち北署直近にインターチェンジがある高速道路での火災など、日常起こる災害においても即消という点で非常に有効だ。こうした点も考慮して装備が決定している。また、車両の左右側面に設置された吸口には75mm吸管を設定しておき、管内火災に対応できるように常時その装備で待機している。

水タンク搭載で一般災害に対応

さて、北署と隣接する東消防署管内には新潟空港がある。北署管内とは阿賀野川を挟んだ対岸に位置しているため、北署は航空機災害にも備える必要があり、同車にもその任務が付与されている(新潟空港直近の東消防署空港出張所にも化学消防ポンプ自動車大I型が配備)。つまり北署の化学消防ポンプ自動車大I型は、石油コンビナート火災で3点セットの1台として泡混合液を作って大型高所放水車に供給するとうだけの存在ではなく、航空機災害では自らも火点直近に部署して消火できることが望ましい。そこで、現場到着後、初期の消火で1台完結の活動ができるよう、薬液タンク(2500L)とともに水タンク(1000L)を搭載することに決めた。

これらの性能を担保するため、日本ドレイケミカルはND200A型大型ポンプ装置を開発し、日野自動車PTO型式認証を取得。機装メーカーの協力により送液容量は先代車両と同じ毎分計6100Lが確保された。

「先代車両と同様、大型高所放水車へ毎分3100Lで送液しつつ、3000型可搬式泡放水砲へ同時送液するために、本車両もポンプ性能を重視する必要があった」

同車の仕様を作成した警防課装備係の飯原消防司令補はこのように話し、さらに続ける。

「大型のポンプ装置を回せるシャーシは少なく、受注生産のシャーシを採用したため、納期まで日数を要した。それでも大容量のポンプが必要だった」

わざわざ受注生産によるシャーシとなった理由はそれだった。大容量のポンプ装置を回すためには、それに耐えうる強いシャーシが必要だったのだ。

「先代車両と同様、大型高所放水車へ毎分3100Lで送液しつつ、3000型可搬式泡放水砲へ同時送液するために、本車両もポンプ性能を重視する必要があった」

同車の仕様を作成した警防課装備係の飯原消防司令補はこのように話し、さらに続ける。

「大型のポンプ装置を回せるシャーシは少なく、受注生産のシャーシを採用したため、納期まで日数を要した。それでも大容量のポンプが必要だった」

わざわざ受注生産によるシャーシとなった理由はそれだった。大容量のポンプ装置を回すためには、それに耐えうる強いシャーシが必要だったのだ。

New Comer Vehicle 水槽付消防ポンプ自動車I-A型

フロント



キャブはハイルーフ化せず、鍍銀作業台のみ設置。LEDは日照角度によっては見えにくいので、ハイブリッドタイプの警告灯を採用した。

日本初導入!



薄型でありながら光量は十分に確保できる。



ライトの操作は右側面に設置した専用コントローラーで行う。上下ボールの伸縮は空圧シリンダーを採用している。



キャブ上の作業台には日本初導入となるテークライトを設置。コンパクトなのではしごの車上伸梯の際の邪魔にもならない。左上には緊急停止ボタンも備える。



車内



後部座席右側には、広報用マイクとモーターサイレンスイッチを設置。隊長は無線等による情報収集が多忙のため、同署では右後部隊員(簡先隊員)が緊急走行時の注意喚起を行う。

注目新車を
ディテール・アップ
Detail Up!
3

(上) 隊長席の空気呼吸器埋め込み型シートは国産のレスキューシートを採用。座面はノーマルシートを流用しているため位置が低く、前方が見渡しやすい。/ (右) 後部座席の背もたれは前倒し式を採用。収納スペースにはヘリとの連携用資機材を収納。



これは便利! 一人で使える現場用シールド

傷病者のプライバシー保護や災害現場の目隠しにブルーシートを用いる本部が多いが、ブルーシートの場合、持ち上げるために何名かの人員を割かなければならない。今回導入した「クイックシールド・プロ」は折畳傘のようになっており、一人で組み立てから保持までが可能な現場用シールドだ。



SPECIFICATIONS

車名	日野
通称名	レンジャー
シャーシ型式	SDG-GX7JGAA改
全長	6600mm
全幅	2360mm
全高	2950mm
ホイールベース	3500mm
最小回転半径	6.0m
車両総重量	9650kg
乗車定員	6名
原動機型式	J07E
総排気量	6400cc
駆動方式	4×4
ポンプ	A-2級
ホースカー	加納式
水槽容量	1500L
配備年月日	平成28年3月8日
織装メーカー	日本ドライケミカル

成当初はスイッチ式の凍結防止ヒーターを取り付ける予定だったが、メーカーからはサーモスタッド式のヒーターを提案された。サーモスタッドは4度まで外気温が下がった段階で自動的に保温を開始する機能だ。なるべく操作を簡略化することで、スイッチの入れ忘れといったミスを防げるのだ。

時間を効率的に使う工夫

同車は「活動時間の効率化」についても徹底的に追及している。通常キャブ内にしかないPTO切替スイッチをポンプ操作室内に設けているのが好例だ。現代の消防車に搭載されたPTO安全装置は精密であり、様々な条件を満たさないとPTOが稼働しないよう厳密に制御している。そのため現着からPTOが操作可能となるまでに数秒程度の時間がかかるが、一刻を争う火災現場で機関員が数秒間もキャブ内でじっとしているのは実に時間が

写真 © 伊藤久巳

佐久広域連合消防本部 小諸消防署 [長野県]

水槽付消防ポンプ自動車I-A型

隊員にやさしいタンク車 その秘密は徹底的な効率化にあり

火点直近車両として小型化を念頭に製作。城下町ゆえに坂道が多いため、駆動方式は四駆を採用。



ホイールベース短縮で 小型化を実現

佐久広域連合消防本部は、平成28年3月8日に小諸消防署の水槽付消防ポンプ自動車I-A型を更新配備した。小諸市は戦国時代から続く城下町であり、狭隘路が非常に多い。しかも同車は火点直近車両のため、なるべくコンパクトにすることが新車両を製作するうえでの大前提だったが、同本部管内には上信越自動車道や中部横断自動車道も走っており、水槽容量を先代車両(1500L)以下にすることは考えられない。そこでベースとなるシャーシは車両総重量11t級とし、さらにホイールベースを250mm短縮することで小回り性能を向上させ、狭隘路の問題をクリアした。車両総重量は仕様書に記載された11tを1000kg以上も下回る9650kgにまで軽量化している。

操作を簡略化する

完成した新車両のテーマは「誰もがスムーズに運用できるタンク車」である。昔ながらのポンプ操作を熟知したベテラン隊員から若手隊員まで、だれもが扱いやすい車両とすることで、おのずと操作ミスによるトラブルやタイムロスを防げると担当者たちは考えた。

その工夫はポンプ操作室まわりによく表れている。まず、ポンプ操作システムには自動調圧機能を備えた。通常は任意の位置でスイッチ

等を作動させて自動調圧を働かせるが、今回採用したものは任意の位置でスロットルから手を離すと2秒後に自動的に自動調圧機能が働くすぐれものだ。さらに水槽にある残水量から演算し、液晶パネルに放水可能時間(分・秒単位)が表示される仕様も取り入れた。通常は水位計のみ表示される仕様が、水位計のみ表示される仕様が、放水可能な時間も併せて表示することで、水槽残量を有効に活用できるようになった。

薄型のホースカーは、隊員の要望をもとに採用した。管内では毎年山火事が発生するが、山間部は水が乏しい。水I-A型の場合、必ずしもホースカーを搭載する必要はないが、ホースカーを使ったホース延長ができれば多様な活動が可能となる。同車はコンパクトに仕上げることが必要であったため、特注の薄型タイプを導入した。また三連はしこにはキヤスターを取り付け、隊員1名でも搬送可能として省力化を図っている。



シャッター部を曲面加工しているため、機関員がミラー越しに後部まですっきりと見通せる。

New Comer Vehicle
水槽付消防ポンプ自動車I-A型



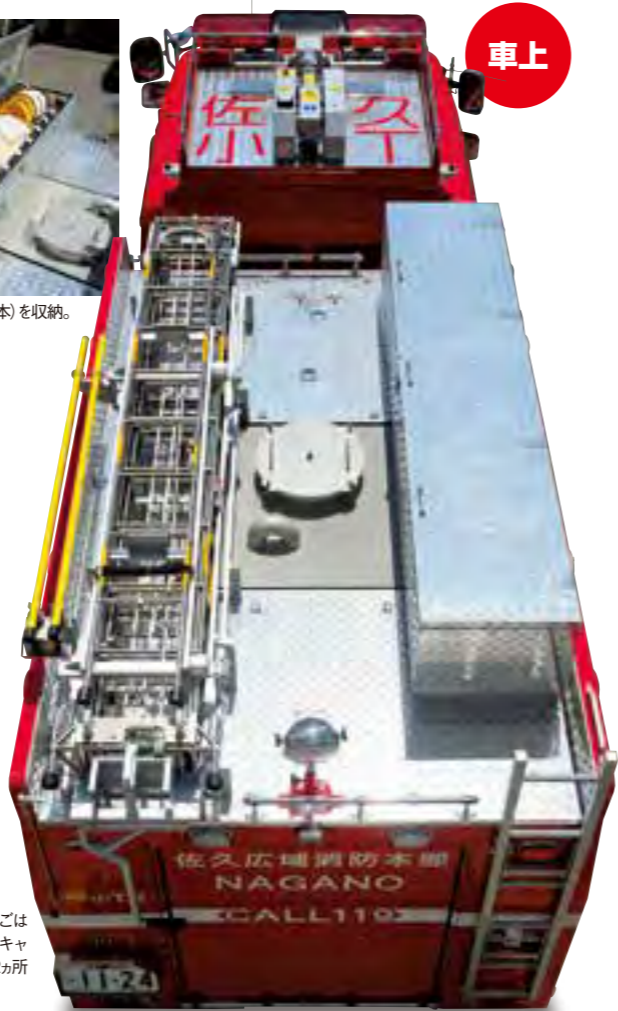
特注の薄型ホースカー。65mmホースを7本搭載する。



編組ボックス内には吸管(2.5m×4本)を収納。

置した。
 時間的にも労力的にも徹底的な効率化を図り、強力な新装備も搭載。コンパクトな車体に隊員への思いやりを盛り込んだ、誰もが使いやすい一台がここに完成した。

車上



車上へ登るはしごはリア右側面と、キャブ・ボディ間の2か所に設けた。

注目新車を
 デテール・アップ
Detail Up!
3

リア

ホースカー横には消火器やスコップ、上にはコンや予備ポンペを収納。



三連はしごはローラー付きで、隊員1名でも楽に搬送できる。



同車の仕様書作成を担当した佐久広域連合消防本部 小諸消防署 警防係 (左から) 消防士長・柏木 剛、消防司令補・柳澤健治、消防士長・吉岡心平



同車を運用する小諸消防署消防隊の隊員たち (左から) 消防司令・古越淳司隊長、消防士長・吉岡心平、消防士長・小暮北斗、消防副士長・山口竹志、消防副士長・砥石 駿。



側面

右側面。収納力を確保するためポンプ操作室はなるべくコンパクトに製作した。火点に直近部署する先着車両であるため自己吸水は基本的に行わない。



左側面も基本構造は右側面と同じ。後部収納部には発動発電機や投光器等を収納する。



右側後部は展開式収納扉とし、ロープ類や地下式消火栓器具等を収納。チェーンソーやエンジンカッターは鉄のドアや土蔵の扉等を破壊するのに便利。



右側ポンプ操作室内には外部マイクと照明装置のコントローラー、無線用マイクを設置。



ポンプ操作部の液晶パネル。水タンク水位(%)のほかに、放水可能時間が時計の下に表示される。

もつたがない。ポンプ操作室に切替スイッチがあれば、到着後すぐに降車して数秒のタイムラグをシャッター開放や車輪止め設定等に有効活用できる。数秒後にはPTOを切り替え、すぐさま放水準備に移行するという無駄のない活動が可能となるのだ。

また、同本部は佐久総合病院佐久医療センターや信州大学医学部附属病院のドクターヘリとの連携活動が多く、公園や小学校のグラウンドをランデブーポイントとしてよく利用する。その場合は支援出動

したタンク車が住民への広報等を行うが、佐久医療センターから小諸市内まではヘリで約6分の至近距離。タンク隊はダウンウオッシュによる砂塵飛散防止のための散水活動などを行い、できる限り迅速にヘリが着陸できる状態にしておくなければならないが、先代車両はキャブ内ではしか広報マイクが使用せず、隊員はポンプ操作室とキャブを行ったり来たりする必要があった。新車両はポンプ操作室に外部出力マイクを設置したため散水活動等と同時に広報活動が行えるようになり、

迅速なヘリ誘導が可能となった。

日本初採用の照明装置



スモールランプを点灯すると、シャッター内の照明はすべて自動で点灯する。これも省力化のための工夫だ。



右側後部以外の収納棚はすべて可動式。中央の棚には積載物の落下防止のためのリバーを取り付けており、バーを下げればガイドローラーになる。

NEWCOMER 今年話題の
新型車両

**水駆動の薬剤混合装置の
汎用性に注目!**

ミッションは
タンク車の本部標準仕様

諏訪広域消防本部は平成28年2月12日、富士見消防署に水槽付消防ポンプ自動車I・B型を配備した。今回の新車両はなんと31年経過した昭和59年車の更新車だ。前車は老朽化

や冬季の積雪対策など、多くの問題を抱えており、更新の話は8年前から出ていたが、なかなか実現しないままに長い時間が経過した。

諏訪広域消防本部は長野県のほぼ中央に位置し、平成11年に岡谷市、諏訪市、茅野市、下諏訪町、富士見町、原村の3市2町1村、6消防署

2分署で発足。平成27年4月、消防体制の更なる強化と、より質の高い消防サービスが提供できるよう、新たな消防体制をスタートさせ、同車は、組織改編後初めての水槽付消防ポンプ自動車となった。

限られた予算の範囲で、理想の車

水槽付消防ポンプ自動車I-B型
諏訪広域消防本部 富士見消防署(長野県)

写真・文◎小貝哲夫

両となるよう仕様の検討を行う中で同本部が重要視したのは、後に付け足せる積載品より、機装を優先させることだった。

車体は寒さが厳しい冬期に備えてオールシャッター化とし、作業の安全を確保する照明装置、省電力化のための灯火類のLED化、電動アシスト付ホースカーとホースカー昇降装置はすぐに決定した。諏訪広域消防本部では、先着隊は火点直近部署ではなく水利直近に部署するという戦術のため、火点までのホース延長の際の隊員の負担軽減と活動の迅速化にホースカーの電動アシスト機能と昇降装置は欠かせない。さらに水槽容量を増やし、狭路が多い地域特性に合わせて全長を縮めるなどして今後のベースとなる仕様に仕上げた。

**ファイアドスを
全国初で常時積載**

最も大きな変更点となったのは、消火薬剤の混合装置である。同本部では圧縮空気泡消火装置CAFSではなく、水動力混合装置のファイアドス(FireDoss)へ変更することにした。ファイアドスはドイツ・



「シンプル」の美学!

外観はシンプル。あえて派手なデザインは入れず、オールシャッター化と相まってシンプルかつ独特の存在感が生まれた。



水槽量を増やしながらも全長を7mに短縮。

FireDoss社の消火薬剤混合システムで、着目したのは水動力で駆動し、搭載のための機装を必要としないこと。最大水量は1000ℓ/minと多く、クラスA/Bいずれの薬剤にも対応可能という汎用性の高さに加え、導入コストが抑えられ、日常のメンテナンス性やランニングコストが不要な点が大きな判断材料になった。

諏訪広域消防本部管内には木造建築物が多いが、水利の充足率も高く、建物火災時には大量放水による消火戦術を採っている。鎮圧後にはクラスA消火薬剤による残火処理を行うた



左側面

① 吸管を格納するポンプ室とその下部に収納スペース、中央に予備ホース、発電機と電源コードリール、後部に予備呼吸器収納庫とスイング式の収納スペース、ファイアドスも個々に格納している。② スイング式の収納扉の構造にもひと工夫。マチを作ることで、後部パネルとの接触を回避している。③ 悩みに悩んだファイアドスの収納スペース。取り出しも容易で、しっかりと固定されている。



右側面

① ポンプ部のレイアウトと中央部分は左側面同様、後部は熱画像直視装置やウインドソックス、エンジンカッターなどの資機材を収納する。② 使用後に汚れた防火衣などを掛けられる工夫を上部に施した。③ オールシャッター化により生まれたスペースを有効活用し、ホースバッグをポンプ部にも配置している。④ 中央のスペースにはガンタイプノズル2基とホースバッグを収納。



見事に完成させた。可能ならば載せ替えるの空気ボンベやエンジンカッターなどの資機材も同時に調達したかったと担当者は語る。

シンプルだが大きな存在感
 ルーフ部分には吸管や予備薬剤、ポータブルファン一式など使用頻度の少ない資機材を収納。キャビンルーフ部分に活動スペースを確保し、「諏訪富士」の航空標識を明記。その中央に大型照明装置を配置し、ルーフ部分のスペースを有効活用している。
 車両外観は全面朱色に塗装されたオールシャッターにあえてライン類などの派手な装飾をせず非常にシンプルに仕上げている。キャブに入れたのは消防本部名と車両種類(タンク車)のみで、配属署名(富士見消防署)は取り外し可能なマグネットとした。
 赤色警光灯は昼間の視認性を高めるためにオールLEDとせず、LED十回転灯型のハイブリッドを採用。また積雪路を走ることから融雪剤による塩害を最小限に抑えるためにタイヤホイールハウス内にカバーを設け、後部のステップ部分には活動靴による小キズ防止の加工も施すなど、地域やメンテナンス面の配慮が行き届いている。今回は限られた予算を機装に集中することで、目指すスペースモデルを

国内初の常時車載
 コンパクトで使い勝手のよい薬剤混合装置!

『ファイアドス』



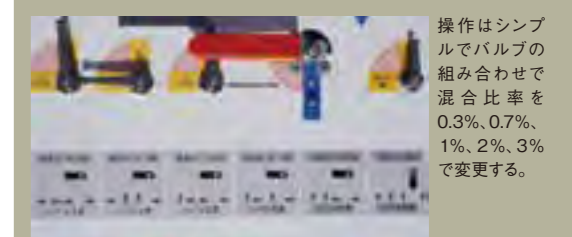
ファイアドス装着例。双管で2基のガンタイプノズルに分岐させている。



可搬式混合システムにより配置されたホースのどの部分でも使用でき、様々なシチュエーションで高い柔軟性を発揮する。



広い範囲に散布できるので、残火処理などに有効に活用できる。



操作はシンプルでバルブの組み合わせで混合比率を0.3%、0.7%、1%、2%、3%で変更する。



ファイアドス装着例。従来型の泡管鎗を取り付ければ、長距離の泡発砲も可能。



離れた場所から十分な水量を火点に放水も可能だ。

次の問題はどんな方法で搭載するかだ。ルーフボックスに格納する案や必要な場合にのみ搭載する方法など、様々な案が検討された。しかし、出勤時にどこに載せるのか、1署7人体制での人的負担を考慮し、無理をしても常時搭載することにした。搭載場所は左側面の後端側板を切り抜いてスペースを確保。内側に張り出すため、ホースカーは右側にオフセットして対応した。ファイアドスを備品として配備している本部が多いが、車両の常時積載品として採用したのは諏訪広域消防本部が初めてだった。

め、すでに茅野消防署や諏訪消防署の車両には多くはないが泡混合装置が装備されており、消火薬剤混合装置は標準仕様として欠かせなかった。
 ファイアドスの普及率は全国的にはまだ高くはないが、クラスB薬剤も使用可能で、送水ホースの間に設置し、泡管鎗を使用することで最大1000L分の泡放射が可能。そのため化学車の代用として活用できる。



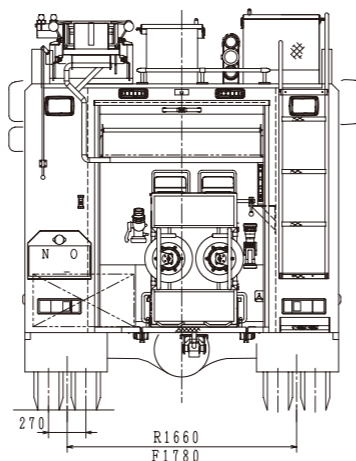
同車両を運用する諏訪広域消防本部富士見消防署の隊員。

水槽付消防ポンプ自動車I-B型

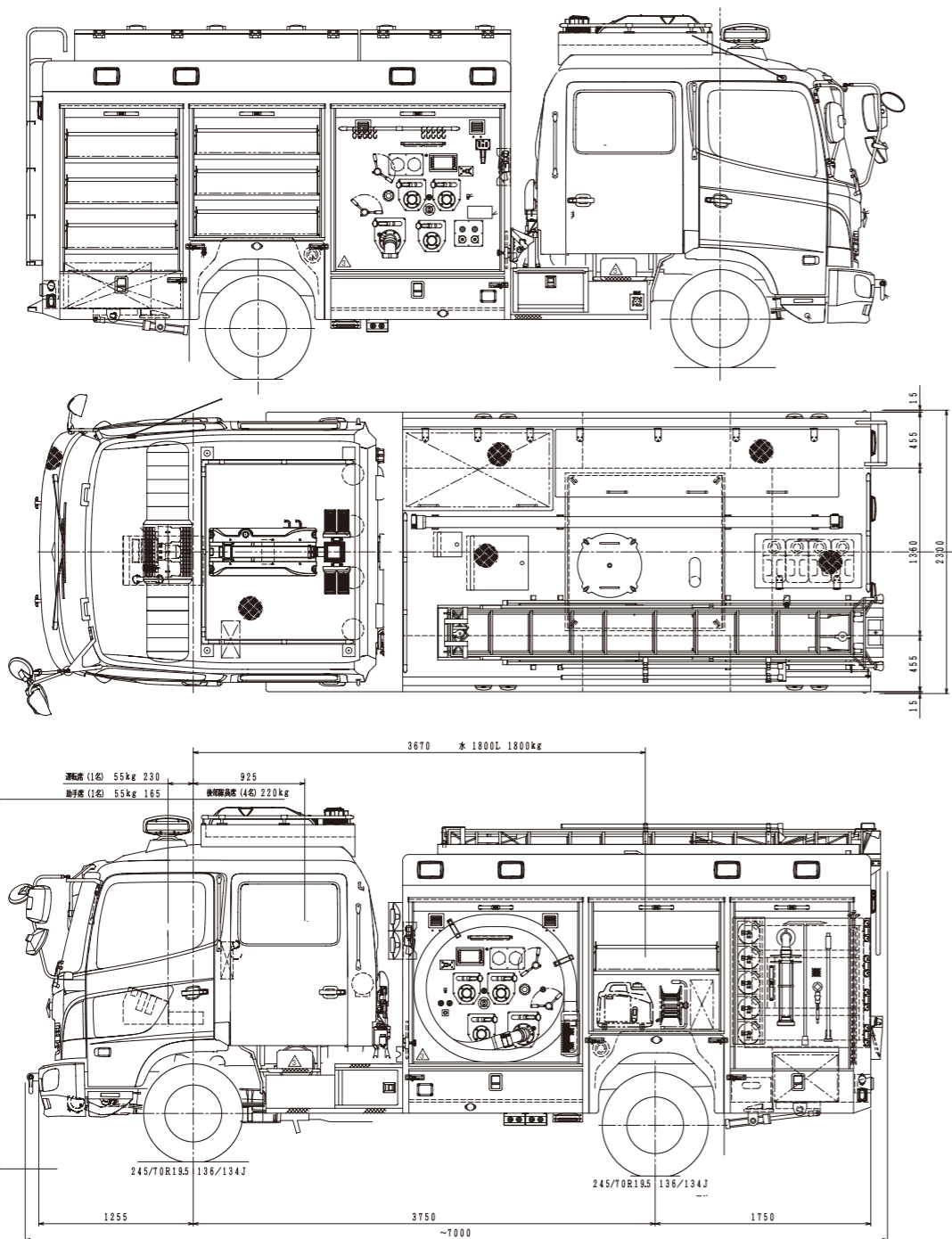
諏訪広域消防本部 富士見消防署(長野県)

SPECIFICATIONS

車名	日野
通称名	レンジャー
シャーシ型式	SDG-GX7JGAA改
全長	7000mm
全幅	2300mm
全高	2840mm
ホイールベース	3750mm
最小回転半径	6.4m
車両総重量	9520kg
乗車定員	6名
原動機型式	J07E
総排気量	60400cc
駆動方式	4×4
ポンプ	A-2級
ホースカー	電動手引き、加納式
水槽容量	1800リットル
配備年月日	平成28年2月12日
機装メーカー	日本ドライケミカル

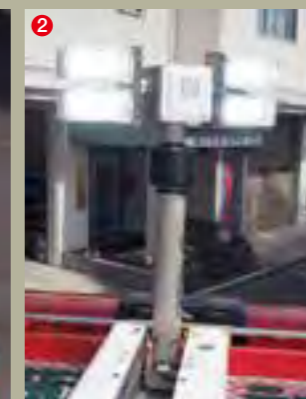


4面図



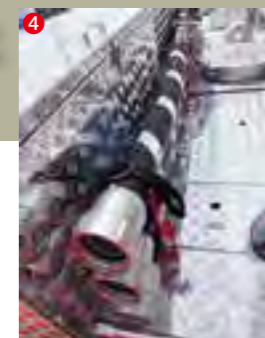
リア

①ファイアドスの収納スペースを確保するために、電動アシスト付ホースカーを右側にオフセットしている。
②坂道や離れた火点へのアクセスを可能にするためにパワーアシストは不可欠だ。③後部格納スペースの上部に、分割式のバスケットを収納する④三連はしごに沿って2本のつび口を格納している。

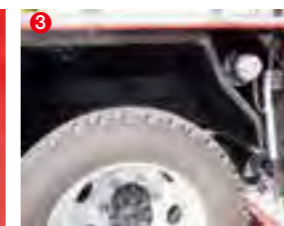


車上

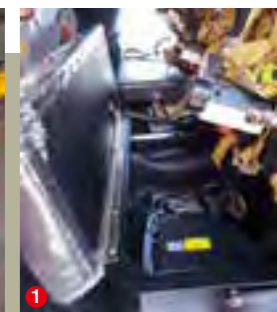
①キャブ上部はルーフ縞縞を貼って活動できるルーフデッキとし、対空標識をいれた。②起立機構を備えたLED式ランプをルーフ部に装備する。③マスト伸張、ランプの俯瞰・旋回操作などの操作はハンドヘルド・リモートコントローラーで行う。④ルーフ部のボックスに沿うように予備吸管3本を収納している。⑤メインのルーフボックスにはポータブルファン式や軽量管鉗など、使用頻度の低い装備品を収納する。



フロントまわり



①赤色警光灯は、前面にLED、横方向はLEDと回転灯のハイブリッド型。②活動靴のつま先でボディのキズを防ぐ処理が施されている。③ホイールハウスにも樹脂製カバーを付けて融雪剤による煙害を低減している。



車内

①後部座席には4基の呼吸器を装備する。②シートの座板は跳ね上げ式で簡単な格納スペースに、背もたれも前倒しが可能になっている。

化学消防ポンプ自動車Ⅱ型

八女消防本部(福岡県)

オールシャッター式を採用し、収納力を格段にアップさせた。また放口付近は大きく開口させ、点検を容易に実施できる仕様。開口部分から見える配管は系統別に色分けし、若手職員への教材車両としても活用できるようにした。



SPECIFICATIONS

車名/日野 □通称名/レンジャー □シャーシ型式/SDG-GD7JGAA改 □全長/6900mm □全幅/2340mm □全高/2880mm □車両総重量/10070kg □乗車定員/6名 □原動機型式/J07E □総排気量/6400cc □駆動方式/4×2 □ポンプ/A-1級 □水槽/1300L □薬液槽/500L □混合方式/ポンプローショナー方式 □配備年月日/平成27年12月10日 □機装メーカー/日本ドライケミカル □配備署所/八女消防署



●「Jレスキュー」2016年7月号vol.82掲載

小型動力ポンプ付水槽車

岡崎市消防本部(愛知県)

平成26年度に更新した東消防署本署の水槽車と同様、水槽をステンレス製からアルミ製へと変更することで軽量化に成功。容量はそのままに車両サイズをコンパクト化した。変速方式についてもMTからATへと変更している。



SPECIFICATIONS

車名/いすゞ □通称名/フォワード □シャーシ型式/QDG-FVZ34U2 □全長/8400mm □全幅/2490mm □全高/3000mm □ホイールベース/4140mm □最小回転半径/7.0m □車両総重量/19095kg □乗車定員/3名 □原動機型式/6HK1 □総排気量/7790cc □駆動方式/6×4 □ポンプ/B-2級(シバウラFZ700) □水槽容量/10000L □配備年月日/平成27年12月18日 □機装メーカー/日本ドライケミカル □配備署所/中消防署本署

化学消防ポンプ自動車Ⅲ型

豊田市消防本部(愛知県)



前回整備した同型車両(8t消防シャーシ)よりも全長を110mm短縮し、取回しをよくなった。

●車名/日野 □通称名/プロフィア □シャーシ型式/QPG-FH1ALDA改 □全長/7990mm □全幅/2480mm □全高/3170mm □ホイールベース/4880mm □最小回転半径/7.5m □車両総重量/15505kg □乗車定員/5名 □原動機型式/A09C □総排気量/8860cc □駆動方式/6×2 □ポンプ/A-2級 □水槽/1500L □薬液槽/1200L □混合方式/電子流量制御式自動比例混合方式 □配備年月日/平成27年1月29日 □機装メーカー/日本ドライケミカル □配備署所/中消防署

●「日本の消防車2016」掲載

消防ポンプ自動車CD-II型

上越地域消防事務組合消防本部(新潟県)



石油コンビナート地区災害に対応したポンプ車。夜間の活動も想定し、車上にLED照明装置を搭載している。



●車名/日野 □通称名/レンジャー □シャーシ型式/SDG-GX7JGAA □全長/7050mm □全幅/2300mm □全高/2930mm □ホイールベース/3750mm □最小回転半径/6.4m □車両総重量/9445kg □乗車定員/5名 □原動機型式/J07E □総排気量/6400cc □駆動方式/4×4 □ポンプ/A-1級 □ホースカー/電動手引き □水槽/700L □配備年月日/平成27年2月1日 □機装メーカー/日本ドライケミカル □配備署所/上越北消防署

A-1級消防ポンプのほかに高圧噴霧消火装置を搭載しているため、消火と延焼防止など2つのラインを使い分けた戦術が可能になった。

品質の高さも 消防車の性能の一つと 私たちは考えます。



耐久性に優れたポンプ、高性能の無給油式真空ポンプ、液晶式操作パネル、電子スロットル装置、自動混合装置、バックライト式圧力計・連成計、真空ポンプ操作パネル、油圧駆動式高圧消火装置「ダブルシューターⅡ」等の装備品と合せて、品質の高い消防車輛として納入先の皆さまから高い評価をいただいています。



小型動力ポンプ付水槽車



化学消防ポンプ自動車Ⅲ型



消防ポンプ自動車 CD-I型



水槽付消防ポンプ自動車I-A型

CD-I から
大型化学車まで



日本ドライケミカル株式会社 車輛営業部

www.ndc-group.co.jp

〒135-0091 東京都港区台場2-3-1 トレードピアお台場 16F・17F TEL: 03-3599-9513 FAX: 03-5530-3584